

59

## ポンペのオランダ語解剖学講義ノート の原典は ボックの人体解剖学書と解剖図譜である

相川 忠臣<sup>1)</sup>, ハルメン ボイケルス<sup>2)</sup>, 酒井 シヅ<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>活水女子大学健康生活学部, <sup>2)</sup>ライデン大学, <sup>3)</sup>順天堂大学医学部

ポンペ・ファン・メールデルフォールトのオランダ語解剖学講義ノート(順天堂大学医史学教室, 故小川鼎三教授蔵)と, その原典と考えられる Bock, C.E. 著作(Poll, P.H. 蘭訳)の生理学と外科解剖学とを関連づけた人体解剖学書 *Handboek der ontleedkunde van den mensch in verbandbeschouwd met de natuurkunde van den mensch en de heelkundige ontleedkunde* (Amsterdam, 1840-41, 3巻)とそれを簡略にした人体解剖学必携 *Ontleedkundigzakboek of kort, doch volledig overzigt van de ontleedkunde van den mensch* (Amsterdam, 1840)の内容を比較検討した。

ポンペのノートは 1 *Ontleedkunde* (解剖学とは), 2 *Over de beenderen* (骨学), 3 *Leer der banden* (靭帯), 4 *Leer der spieren* (筋学), 5 *Leer der slagaderen* (脈管系), 6 *Leer van het zenuwstelsel* (神経系), 7 *Leer der ingewanden* (内臓), 8 *Zintuigen* (感覚)からなる。1857年11月に解剖学講義は始まり, 5章までを1858年末に終了し, 6から8章を1859年末に終了した。1859年9月と11月に刑屍の解剖実習が行われた。眼耳のアルコール標本を用いて眼耳の実習も行われた。

*Handboek*は充実した解剖学総論で始まり, 骨学に始まるその時代の他の解剖学教科書と比べて異彩を放っている。ノートもこの原典と同様に最初に総論があり, 1から5章までの内容はよく一致する。しかし6章の一部と7章:内臓に含まれる感覚器を最後に感覚として独立させている点が異なる。量的には *Handboek*の簡約版である *Zakboek*よりもさらに簡略である。例えば, 1章:総論の解剖学史は *Handboek*より *Zakboek*で簡略, ノートは代表的人物名を示すのみである。しかし *Handboek*の2章:骨学にある骨の化学組成表, ユーカサス, アメリカ, マレー, 蒙古, エチオピアの5人種の頭蓋骨形状の比較, *Het kraakbeen* (軟骨)の3項目はノートにあるが, *Zakboek*には無い。4章:筋学の頭部の筋は *Zakboek*で34あるのに, ノートでは20しかないが, 頸部以下の筋肉にはほとんど省略はない。筋肉名の後にカッコ書きされた図の番号・符号は Bock, C.E.の解剖図譜 *Hand-atlas der Anatomie des Menschen* (Leipzig, 1844)と *Hand-atlas der ontleedkunde van den mensch* (Pool, P.H.の蘭訳, Amsterdam, 1842)のものと同様一致した。ポンペはこれらの図譜を使用したに違いない。ノートの5章:脈管系に *Handboek*と *Zakboek*にある動脈と静脈の違いなどを含む脈管総論はなく, 心臓に始まり, 動脈, 静脈, リンパと続く。リンパの化学的組成表は *Handboek*とノートにあり, *Zakboek*にはない。ノートの6章:神経系は *Handboek*に加えて他の教科書を参考にして充実させた可能性がある。ちなみにポンペのオランダ語生理学講義ノートには1850年代以降に発展した神経生理学はみられない。7章:内臓は *Handboek*では最初に細胞組織, 膜, 腺, 感覚器(眼, 耳, 鼻, 味覚器官)があり, 発声器官, 呼吸器, 消化器, 泌尿器, 生殖器と続く。ノートは呼吸器(含喉頭), 消化器, 泌尿器, 生殖器からなる。感覚を別に独立させていて, 細胞組織, 膜, 腺の記載は無い。従ってミクロの解剖の記載はノートに少ない。*Zakboek*は細胞組織のみを欠く。ノートの8章:感覚は視, 聴, 嗅, 味と触の5感覚からなる。感覚を神経系の一部と考えて独立させ, 眼耳実習や1859年12月に講義した眼の生理学にあわせて最後に教えたのであろう。

以上の結果, ノートは肉眼解剖を主とする内容であり, その原典として *Zakboek*より *Handboek*が重要である。ポンペはノートと *Hand-atlas*を用いて肉眼解剖学を教えた。しかし彼は1台の顕微鏡を用いて, ミクロの解剖も(彼の言葉によれば *histologie*と *anatomie*を結びつけて)教えた。彼の医務報告に使用したとある Weber, M.I.の *Anatomischer Atlas*は *Hand-atlas*にはみられない種々の器官の組織の図を含む。この図譜からその内容を想像するしかない。